



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

### 第48号(2009年5月22日)

#### 「売買回転率と投資リターン」

株式や投資信託などに投資する際、短期的な値動きをみて売買を繰り返すという投資戦略は多くの場合、あまり良好な成績につながらないと言われていています。むしろ一度買ったら、あとはじっとしていることが結果的に優れた投資リターンをもたらすことがあります。

投資信託の評価・格付けなどを行っているモーニングスター社の売買回転率に関するデータをみてみましょう。以下は米国において2008年12月31日時点で15年以上の運用実績がある298本の大型株アクティブ運用型ファンドについて、売買回転率の高いものから順に4つのグループに分類したものです。

| ＜売買回転率＞ | ＜15年間年率リターン実績（手数料控除前）＞ |
|---------|------------------------|
| 99%＜    | 5.04%                  |
| 65%－99% | 4.96%                  |
| 34%－65% | 5.55%                  |
| 0%－34%  | 5.81%                  |

売買回転率とは、ファンドに組み入れられている銘柄の売買頻度を示しています。例えば、売買回転率100%以上というのは、1年間でファンド内の銘柄が全て入れ替わることを示しているのに対し、売買回転率20%以下というのは、平均して最低5年間は同一銘柄をファンド内で保有しているという意味であり、より長期保有の投資戦略であると言えます。

このデータから読みとれるのは、売買回転率の低いファンドほど運用成績がよい傾向にあるということです。このような差が生まれる要因として考えられるのは、頻繁に売買を繰り返す投資家は、投資行動が短期的な株の値動きに対して後追いになってしまっているということです。人間は通常、損をしていると気持ちが沈み、儲かっていると明るい気分になるものです。この性格が災いし、しばしば株式投資の世界では、下がっている銘柄から資金を引き揚げ、直近上昇している銘柄に乗りかえるという行動がみられます。

しかし優れた投資成績を実現するには、「安いところで売って、高いところで買う」のではなく、全く逆の動きをすることが大切になります。短期的な株の値動きをみた投資家には感情のブレが生じるため、株価が下落し損失が拡大している局面で買い増しを行うのは、言葉で表現する以上に精神的に難しい戦略ですが、伝説的な投資家といわれる賢者たちはみな、自らの感情をコントロールし、忍耐強く相場に向き合うことを最大の強みとしているのです。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。